

大阪市英語教育改善プラン

(1) 英語教育の状況を踏まえた目標

※ 令和4年度よりすべての大阪市立高等学校が大阪府に移管となるため、本プランより小中学校（義務教育学校を含む）のみの記載とする。

① 学習到達目標の整備状況

	設定		公表		達成状況の把握	
	目標値	現状	目標値	現状	目標値	現状
中学校	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	46.9%
小学校	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	46.5%

- ・学習到達目標の「設定」、「公表」、「達成状況の把握」のそれぞれにおいて、100%を達成目標値として設定する。
- ・平成30年に義務教育9年間を通した「大阪市版『CAN-DO リスト』の形での学年別到達目標（大綱）」を策定し、全小中学校が各学年における技能・領域ごとの目標を共有するとともに、本市ホームページにて公表している。
- ・「達成状況の把握」について、中学校では令和元年度の19.4%から27.5ポイントも大幅に上昇したが、さらにCAN-DOリストを活用した「指導と評価の一体化」を推進する必要がある。

② 生徒の授業における英語による言語活動を行う時間の割合

	目標値	現状
中学校	75.0%	47.6%

- ・授業の半分以上の時間、英語による言語活動を行っている教員の割合75%以上を達成目標値として設定する。
- ・新学習指導要領の実施を踏まえた研修等により、徐々に授業改善は進んでいるものの、依然として英語による言語活動が十分に実施できていない。要因としては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、教室内でペアワークやグループワーク等対面形式の言語活動が大きく制限されたことや、教員の言語活動に対する認識が不十分であることが考えられる。

③ パフォーマンステストの実施状況

		目標値	現状
中学校	スピーキングテスト	10.0回	10.0回
	ライティングテスト	10.0回	8.2回

- ・スピーキングテスト、ライティングテストともに10回を達成目標値として設定する。
- ・スピーキングテストについては、前年度から引き続き目標を達成しており、ライティングテストについては、前年度を上回っている（令和元年度スピーキングテスト10.3回、ライティングテスト7.6回）。
- ・新学習指導要領の全面実施に伴う評価方法の変化や、大阪市英語力調査として4技能型外部試験の導入等により、教員が発信技能に関する指導をこれまで以上に意識するようになったことが考えられる。しかしながら、感染症拡大防止の観点から、日々の授業においてスピーキング指導が十分に進まない状況が生じている。

④ 英語担当教員の授業における英語使用状況

	目標値	現状
中学校	75.0%	39.5%

- ・発話の半分以上を英語で行っている教員の割合 **75%**以上を達成目標値として設定する。
- ・中学校においては、前年度より **6.5** ポイント下回った（令和元年度 **46%**）。学習指導要領において「授業は英語で行うことを基本とする」とあるが、そのための教員の英語力・指導力の向上が課題である。

⑤ 求められる英語力を有する英語担当教員の割合

	目標値	現状
中学校	50.0%	35.6%

- ・CEFR **B2** レベル以上を取得している英語担当教員の割合 **50%**以上を達成目標値として設定する。
- ・教員対象の英語力向上研修等の実施により、前年度を **5.2** ポイント上回った（令和元年度 **30.4%**）。

⑥ 求められる英語力を有する生徒の割合

	R4 目標値	現状
中学校	53.4%	52.6%

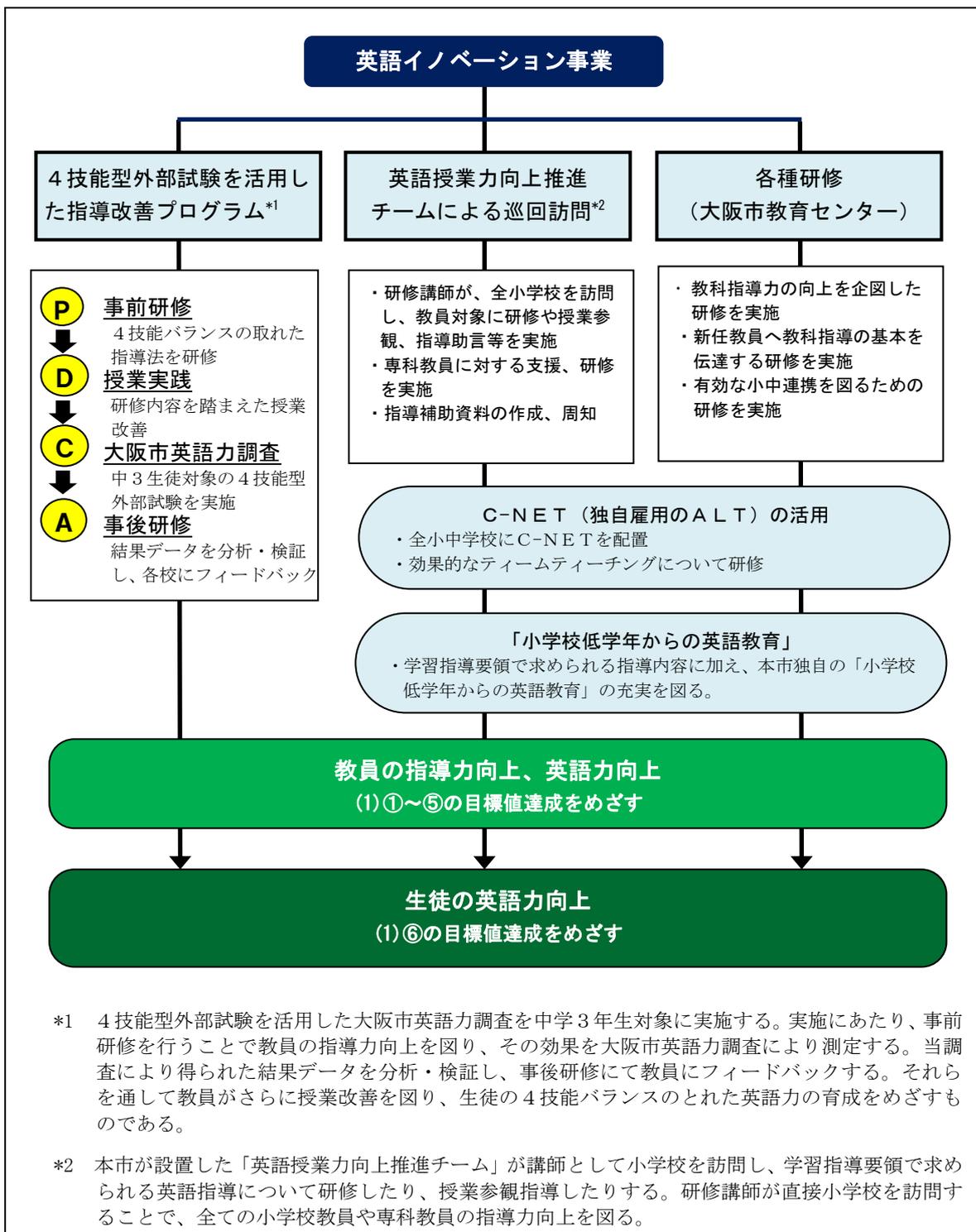
- ・CEFR **A1** レベル相当以上の英語力を有する中学生の割合 **53.4%**以上を達成目標値として設定する。
- ・これまで中学生の英語力については、大阪市英語力調査として「聞くこと」「読むこと」の2技能を測定してきたが、令和3年度からは、当調査として「話すこと[やり取り][発表]」、「書くこと」を加えた4技能型外部試験を導入した。その結果、4技能5領域においても、第3期教育振興基本計画の成果指標であるCEFR **A1** レベル相当以上を達成した中学生の割合 **50%**以上を達成でき、今後さらなる向上をめざす。

【小学校英語専科指導について、新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合】

	R4 目標値	現状
新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合	25.0%	10.0%

- ・**2025** 年度に上記指標 **50%**以上を達成するため、今年度 **25.0%**を達成目標値として設定する。そのための取組について(2)－⑤に示す。

(2) (1)の目標を達成するための取組(施策の全体像と具体的な計画)



① 学習到達目標の整備を進めるための取組

- ・ 中学校英語科教員及び小学校教員を対象とする外国語小中連携研修を実施し、「大阪年版『CAN-DO リスト』の形での学年別到達目標(大綱)」を活用した「指導と評価の一体化」を図るための授業改善について共通理解を図る。
- ・ 達成状況の把握ができている中学校は46.9%、小学校は46.5%であり、さらなる向上をめざして、目標の達成状況を踏まえた評価の充実・改善を促す。

② 生徒の授業における英語による言語活動を行う時間の割合を向上させるための取組

- ・ コロナ禍においても有効な言語活動が推進できるよう、一人一台端末等 ICT 機器の活用や実施手法の工夫について研修に取り入れ、教員への啓発を行う。
- ・ 学習指導要領における言語活動の定義を踏まえた具体的指導法を教員に研修する。その際、言語活動には、「話すこと[やり取り][発表]」だけでなく「聞くこと」「読むこと」「書くこと」も含まれ、統合的に言語活動を行うことを教員に周知する。
- ・ 英語による言語活動を実践している授業の動画資料をポータルサイト等に掲載し、教員に提供する。
- ・ 教員の英語力向上のための研修を実施し、英語で効果的な指導を行える教員の育成を図る。

③ パフォーマンステストの実施状況を改善するための取組

- ・ 『『指導と評価の一体化』の学習評価に関する参考資料』に示されたパフォーマンステストの事例を踏まえ、パフォーマンステストや評価の在り方について研究を進めるとともに、研修等を通して教員に周知する。
- ・ 具体的なパフォーマンステストの実践動画資料をポータルサイト等に掲載し、教員に提供する。

④ 英語担当教員の授業における英語使用状況を改善するための取組

- ・ 大阪市英語力調査（4技能型外部試験）を活用した教員の指導改善プログラムを通して、英語による授業の必要性や有効性を示し、教員の授業改善を図る。
- ・ 外部機関や大学等と連携した英語力向上研修を実施し、教員が英語で授業を行うための指導力の向上を図る。
- ・ 英語で行っている授業の動画資料をポータルサイト等に掲載し、教員に提供する。

⑤ 求められる英語力を有する英語担当教員の割合を向上させるための取組

- ・ 外部機関や大学等と連携した集中講座を実施し、CEFR B2 レベル以上の英語力を有する教員の育成を図る。
- ・ 小学校教員の新規採用における一定の英語力を有する教員の採用を促進する取組
次の(1)～(4)のいずれかに該当する受験者には、申請により第1次選考面接テスト受験者の総合点並びに第2次選考の筆答テスト及び実技テストの合計得点のそれぞれに加点する。

〈加点内容〉

	第1次選考	第2次選考
(1)又(2)を満たす場合	面接テスト受験者の総合得点に 90 点加算	筆答と実技の合計得点に 30 点加点
(3)を満たす場合	面接テスト受験者の総合得点に 60 点加算	筆答と実技の合計得点に 20 点加点
(4)を満たす場合	面接テスト受験者の総合得点に 30 点加算	筆答と実技の合計得点に 10 点加点

- (1) 英語の中学校教諭又は高等学校教諭の普通免許状を所有している人
- (2) 英検 1 級合格、GTEC(CBT)1,350 点以上取得、IELTS7.0 以上取得、TOEFL(iBT)95 点以上取得、TOEIC(L&R)945 点以上取得のいずれかを満たす人
- (3) 英検準 1 級合格、GTEC(CBT)1,190 点以上取得、IELTS5.5 以上取得、TOEFL(iBT)72 点以上取得、TOEIC(L&R)785 点以上取得のいずれかを満たす人
- (4) 英検 2 級合格、GTEC(CBT)960 点以上取得、IELTS4.0 以上取得、TOEFL(iBT)42 点以上取得、TOEIC(L&R)550 点以上取得のいずれかを満たす人

⑥ 求められる英語力を有する生徒の割合を向上させるための取組

- ・ 小学校教員の指導力の向上を図ることで、本市独自の「小学校低学年からの英語教育」を充実させる。また、外国語小中連携研修等を通して有効な小中接続を図り、9年間を見通した英語教育の強化を推進する。
- ・ 指導力のあるネイティブスピーカーを全小中学校に配置することで、児童生徒に生きた英語に触れる機会を提供するとともに、効果的なティームティーチングを実施し、英語力の向上を図る。
- ・ 4技能型外部試験を活用した指導改善プログラムを通し、英語科教員一人ひとりが自己の指導内容を分析・検証し、授業改善を図るPDCAを構築する。
- ・ 多聴多読教材を活用した帯活動を実施したり、英語で言語活動を行う割合を増やしたりすることにより、4技能5領域の総合的な学力向上を図る。

(3) (2) を実施する体制の概要

◆ 英語イノベーション事業

	取組の必要性・目標	具体的方策	事業効果						
ネイティブ・スピーカーの活用	生きた英語や多様な文化を学ぶ機会を増やす。	独自雇用の外国語指導員(C-NET)127名を全小中学校に配置	中学校卒業段階において、CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合 <table border="1"> <tr> <td>現状</td> <td>52.6%</td> </tr> <tr> <td>R4目標</td> <td>53.4%</td> </tr> </table> 大阪市英語力調査(4技能型外部試験)により測定	現状	52.6%	R4目標	53.4%		
現状	52.6%								
R4目標	53.4%								
小学校低学年からの英語教育	9年間一貫した英語教育を実施し、4技能バランスの取れた英語コミュニケーション能力を育成する。	全小学校で小学校低学年からの短時間学習を実施(本市独自)							
英語力の把握・検証	中学生の英語力を的確に把握するとともに、各学校における学習指導の改善・工夫に役立てる。	大阪市英語力調査 4技能型外部試験を活用したPDCAの構築 5月：事前研修 5～10月：授業実践 10月：英語力調査 結果データの分析・検証 1月：事後研修							
英語活動支援	児童生徒が、集中的に英語を使う機会を提供する。	英語体験イベント「イングリッシュ・デイ」を実施							
教員の指導力・英語力向上	教員の指導力・英語力の向上を図る。	▶ 英語授業力向上推進チームの活用 ・ 巡回訪問指導 ・ 教材資料等作成 ・ 専科加配教員研修 ▶ ネイティブ・スピーカーや外部機関等を活用した英語力向上研修等							
			CEFR B2 レベル以上の英語力を有する教員の割合 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>中学校</td> </tr> <tr> <td>現状</td> <td>35.6%</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>50.0%</td> </tr> </table>		中学校	現状	35.6%	目標	50.0%
	中学校								
現状	35.6%								
目標	50.0%								

◆ 大阪市教育センター

研修名	受講対象	目的	研修回数	受講 予定数
小学校外国語活動・外国語科新任教員研修1	令和4年度採用の小学校教諭(1年目)	小学校外国語活動・外国語科の基本的な事項について、講義と実践事例を通して理解し、外国語活動・外国語科における指導方法を習得する。	オンデマンド 事前課題、 集合、事後課題 1回(展開)	358名
小学校外国語活動・外国語科新任教員研修2	令和3年度採用の小学校教諭(2年目)	小学校外国語活動・外国語科の授業研究に係る事項について、講義と実践研究を通して理解し、外国語活動・外国語科の指導に係る工夫改善の方法を習得する。	オンデマンド 事前課題、 集合、事後課題 1回(展開)	420名
小学校外国語活動・外国語科研修	教職経験3年目から5年目の小学校教員・小学校教員、常勤講師で受講を希望する者	小学校外国語活動・外国語科教育の理論に係る事項について、研究資料を通して理解し、外国語活動・外国語科における指導方法の原理を習得する。	オンデマンド、 事後課題 1回	未定
小学校英語短時間学習の進め方研修1・2・3	受講を希望する小学校教員	英語教育の学びの連続性について理解を深め、児童の発達段階に合わせた短時間学習教材の効果的な活用方法を習得する。	オンデマンド 事前課題、集合 各1回	90名
中学校外国語科(英語)新任教員研修1	令和4年度採用の中学校英語科担当教諭(1年目)	外国語科(英語)の基本的な事項について、講義と授業実践を通して理解し、外国語科(英語)における指導方法を習得する。	オンデマンド 事前課題、 集合/オンライン、事後課題 1回(2展開)	24名
中学校外国語科(英語)新任教員研修2	令和3年度採用の中学校英語科担当教諭(2年目)	外国語科(英語)の授業研究に係る事項について、講義と実践研究を通して理解し、外国語科(英語)の指導に係る工夫改善の方法を習得する。	オンデマンド 事前課題、 集合/オンライン、事後課題 1回(2展開)	21名

中学校外国語科 (英語) 研修	<ul style="list-style-type: none">・ 教職経験3年目から5年目の中学校英語科教員・ 中学校外国語科(英語)担当教員、常勤講師で受講を希望する者	外国語科(英語)教育の理論に係る事項について、実践研究を通して理解し、外国語科(英語)における指導方法の原理を習得する。	オンデマンド 事前課題、 集合/オンライン 1回(2展開)	未定
外国語小中連携 研修	各小中学校の外国語 担当教員	講義と研究協議を通して、小・中学校で行われる外国語教育の指導について理解する。	オンライン 1回(4展開)	416名

